朝倉
介護保険事業者
協議会
会報

朝倉介護保険事業者協議会　会報
Vol.30　平成21年12月26日発行（通巻第30号）

Vol.30

新春、ビッグ対談！

～ 長谷川 法世 氏　来たる ～

平成１９年に超高齢社会（65歳以上の人口比21%以上）を迎えた我が国・日本。戦後から現在に至るまで変化し続けている“日本人のあり方”について、漫画家の長谷川法世氏を特別ゲストに、当協議会会長・今村順氏ならびに副会長・火野坂徹氏との対談が行われた。

長谷川：今、高齢者は全国に何人ぐらいですか？
私も今年高齢者の仲間ですから・・
今　村：人口の２３%位、全国が１億２０００万人として・・２７６０万人ぐらいになるのでしょうか・・・。
長谷川：昭和２０年生まれなので、今年６５歳になるんです・・・。
火野坂：法世さんもそんなになられるんですね・・。
今　村：今のテレビなどの報道はすごいですね。
何を伝えたいんでしょうか・・
長谷川：日本で新聞が発達したのは明治になってから、西南戦争のあと発展したんですよ。
事件とかを報道するようになって・・・。
それまでは瓦版だった。政府が法律を決めた「徴兵令」など・・、そのころは識字率が低く漢字が読めない人が多かったのでふりがなをつけるようになった。法律の解釈のため、教えるために政府が新聞を作ったんですね。
今　村：それがもともとだったんですね。
火野坂：法世さんのお父さん、お母さんは？
長谷川：２人とも、もう亡くなりました。親父は８１歳、母親は８５か８６歳だったですね。
今　村：二人とも８０代まで長生きされてたんですね。法世さんは何歳まで生きようと思っていますか。
長谷川：親父の年ぐらいまでは生きようかと思っています。でも親父は６０歳ぐらいでもそうとう老けていたですもんね。２５年前に行った時、アメリカでは８０歳でも自分で車を運転されていました。８０歳でも若かったですよ。今の日本の高齢者は若くなりました。そういう意味では、１０年でアメリカに追いついたですね。
今　村：そういえば、昔は腰の曲がったおばあちゃんをよく見かけていましたよね。
火野坂：私が子供の頃に敬老会をしていたとき、７０歳以上で自分で歩いている人は少なかったです。
今　村：今１００歳前後の方は生命力がすごいですね。その年代によって違いますが・・・。法世さんの２０年代生まれの方は小柄な方が多いですよね。

協議会ホームページへ今すぐアクセス！ http://www.asakura.in

朝倉介護　　検　索

新春ビッグ対談　～ 長谷川 法世 氏　来たる ～

編集部：団塊の世代は（火野坂）２３年生まれ頃ですかね。
長谷川：２０年生まれは人口が少ないんですよ。それで、入学試験も有利でした。
火野坂：団塊の世代はゆりかごから墓場まで常に競争の世代。火葬場もつかえる（混み合う）んですよね。
長谷川：若者文化は団塊の世代からなんですよ。それまでは、文化は大人のものと思われていた・・・プレスリーが若者文化の走りですよね。
火野坂：その頃、クラシックからエレキギターに変わったんですね。
団塊の世代の人たちは競争、主張しなければいけないですから。
長谷川：東京にいる同窓生１０人くらいから市の文化賞のお祝いに何がいいか聞かれて、シャープペンとボールペンのセットを頂いたが。それがパーカーだったんです…。
パーカーは重たいので、サインをする位しか使えないんです。アメリカは字が大きかったり大文字だけで書いたりするし、漢字を使わないからペンが重たくてもいいのかもしれません・・・。
欧化政策の為に万年筆を推奨していたのかもしれません（このあと万年筆談義・政治談義が続く）。
編集部：法世さんは、老後をどう考えていますか？
長谷川：ボケずに死にたいと思いますね。肉体と脳のバランス、衰え方が一緒になればいいと思う。栄養がいい為か肉体は元気、でも脳だけが衰退するのは生物学的に不可思議な状態だと思います。
火野坂：変なタンパクが脳に影響しているのかも・・・。
長谷川：アメリカではどうですか？
火野坂：アメリカでも、アルツハイマーは多いです。乳ガンも多いですね。

長谷川：今の米もおかしい。タンパク質を減らしてデンプン質を多くし、モチモチで甘い米を作っているが・・本当は、健康にいいものが美味しいはず。
火野坂：人間は何の為に食べるのかもう一度考えた方がいい。今のテレビを見ていると、美味しい物を作ろう！食べよう！という欲望だけ…今の世の中少し間違って来ている。
編集部：美味しい物は大体、体に悪いですもんね。マスコミがあまりにも世の中の美味しい物を強調しすぎているのではないですか。
今　村：介護は他人や施設に任せて欲しくない・・人に対するリスクを分散しているだけ。他人に任せる覚悟をしなくていいので、他人には任せないで欲しいですね。割り切り過ぎている・・・。
救急車を呼んだのにすぐに来ない・・と苦情を言う人は、救急車の数を増やすために税金を払うということはせずに、今必要なときだけのことを考えている・・これはおかしいと思います。

長谷川：今は、核家族で転勤あり、であれば家族がバラバラになる。介護どころではない。これはマイナス部分が多い。もともとこれ（大家族から核家族への変更）は国の方針だった。本当は、堅い絆は農業地帯だったのに・・・。税金と徴兵令のためにこれが崩れてしまったんです。政府が音頭とってパン食にした・・それで、給食もコッペパンにして。でも、「米を守りたかった」とは、日本人は誰も言わない。でも、みんなが望んでこんなになった日本のはず。

今　村：それに今、生命力・生きる力が落ちてきています・・・。
「ほうけんぎょう」は、しきらんって言うひとがいる。地方文化の意味がわからなくてもいい。いままで続けていたことを“止めること”がかっこいいと思っている人がいる。でも本当は“続けること”がかっこいい事です。
昔から、「郷に入っては郷に従え」「長いものにはまかれろ」ということわざがあるが、とりあえず残しておいてから議論してほしいものです。
とにかく今年は、「日本という国はどういう国なのか」をまじめに考える年になると思いますね。

事業報告Ⅰ

平成２１年度 第３回スタッフセミナー

「新型インフルエンザ対応について」

平成２１年９月１８日（金）、朝倉市杷木楽邑館（文化ホール）にて今年度のスタッフセミナー第３回が開催された。

現在、猛威を奮っている「新型インフルエンザへの対応」をテーマに、朝倉保健福祉環境事務所・企画指導係技術主査で医師でもある坂本龍彦氏から、その感染の経緯から予防法まで詳細な解説が行われた。

講演では今後の流行の予測や従来の季節性インフルエンザとの違い、個人・施設における具体的な感染経路や予防法が紹介されたほか、今回のＨ１Ｎ１ウイルスは呼吸器系でのみ局所感染する弱毒型（致死率は２％未満）でも、今後、病原性（発症後の重症度）が高く変異する可能性が残されているなど、慎重な対応が求められている現状が説明された。

新型インフルエンザは弱毒性?強毒性?

弱毒性	弱毒型	低病原性
病原性が低い	**呼吸器系でしか感染・増殖できない**	**発症後、重症化ししにくく致死率も低い**
強毒性	強毒型	高病原性
病原性が高い	**全身の臓器に感染増殖できる**	**発症後、重症化しやすく致死率が高い**

2009年のH1N1型インフルエンザウイルスは弱毒性・弱毒型で、強毒型にはなりませんが、高病原性に変化する可能性があります。

事業報告Ⅱ

平成２１年度 第４回スタッフセミナー

介護現場における事故について

平成２１年１１月２０日（金）、朝倉市総合市民センター（ピーポート甘木中ホール）で今年度のスタッフセミナー第４回が開催された。

今回は介護現場における「事故」をテーマに、社会福祉法人・朝倉恵愛会・特別養護老人ホーム宝珠の郷事業部長の尾花拓也氏と福岡県保健医療介護部・介護保険課・参事の永田勉氏、高齢者支援課・課長補佐兼監査指導係長の久野信豪氏の３名を講師に迎え、福岡県内の事故発生状況の紹介をはじめ、実際に起こった事故への応対とその後の取り組み、また法人・事業所で発生した場合の責任と対策についてなど多岐に渡って解説された。

部会活動報告Ⅰ

居宅療養管理指導部会

居宅療養管理指導とは、医師が通院困難な要支援・要介護状態の利用者の居宅を、同意を得て訪問し、心身の状況や置かれている環境などを把握した上で、可能な限りその居宅において、有する能力に応じた、自立した生活を営むことができるように療養上の管理・指導・助言などを行い、利用者の療養生活の向上を図るものであります。具体的には、①居宅介護支援事業者（介護支援専門員）に対する居宅サービス計画（ケアプラン）作成などに必要な情報提供②利用者および家族に対する居宅サービスを利用する上での留意点、介護方法などについての指導・助言などとなっています。

医師が居宅療養管理指導費を算定するためには、要支援・要介護者の居宅に月1回以上、訪問あるいは往診行っている必要があります。医師の居宅療養管理指導費は、訪問回数に応じて月2回を限度に算定できます。診療報酬の「在宅時医学総合管理料」及び「特定施設入居時医学総合管理料」を算定した利用者については居宅療養管理指導員（Ⅱ）290単位（1月2回限度）、それ以外については居宅療養管理指導費（Ⅰ）500単位（1月2回限度）を算定することができ、1単位10円で換算した金額を請求することになります。また、その利用料は通常の介護保険サービスと同様、費用の10%は必ず利用者から徴収する必要があります。

診療録（カルテ）の記載は、訪問診療などと個別に行う必要はないが、居宅療養管理指導の部分については下線や枠組みなどによって、他の記載と分ける必要があります。また、サービス提供の記録、利用者に関する区市町村への通知の記録、苦情処理の記録、事故発生時の対応の記録などの事項を整備し、その完結の日から２年刊保存しなければならないことになっています。なお、居宅療養管理指導を行う医療機関は、指定居宅サービス事業者とみなされ、運営規定などを作成して掲示するとともに、利用者などに対して文書による説明を行い、同意を得ることが必要となります。

平成21年4月10日付で県医師会より、利用申込者又はその家族に対し、運営規定の概要、居宅療養管理指導従事者の勤務体制、苦情処理の体制その他の利用者申込者のサービスの選択に資すると認められるものを記した「重要事項説明書」の作成や交付がされていない医療機関が見受けられるという通達があっています。この時点を十分に注意されて居宅療養管理指導を行うようにお願い致します。

Hobby Box

～ 最近の感動 ～

介護老人保健施設城山荘　野田 雅春 さん

「趣味は？」、と聞かれるとちょっと困ってしまう。集中力がないのか、一つのことが長続きせず、次から次にいろんなことをやっている。魚釣りでも身体を動かすことでも、温泉行きや旅行も好きだし・・・とにかくせわしないのである。どこかに行くと、博物館からお土産店まで、時間がある限りとにかく動き回って、じっとしていられない自分に気づく。そんな中、最近の見て歩きの中での感動を一つ。

先日、研修でアクロス福岡に行った折、地下で「あかり絵の世界展」があっていた。昭和の香り漂う懐かしい風景の中に、暖かみを感じさせる「あかり」が配置され、元気で可愛い子供達の様子が素焼きの人形で表現されたいわゆるオブジェで、それぞれに博多弁のタイトルがつけられていた。どの子供も表情が生き生きとしており、今にも動きだしそうで、声も聞こえてきそうな感じ。急に、小さい頃田んぼで遊んだ時に嗅いだわらの臭いとか、たき火の暖かや香り、そういったものがこみ上げてきた。人形師であった祖父の薄暗い工場に行くと、人形の顔が恐ろしかったことや顔料の匂いが、また黒い自転車の後ろに乗せられ、砂糖を一杯かけたかき氷を食べにいった思い出とかも蘇ってきた。過ぎ去った時間を、ほのかな温もりを伴った懐かしさに変えてくれるこの「あかりっ子」達に自分は魅せられてしまった。

是非、施設の利用者や職員にも見せたいと、作者である入江千春さん（あかり絵作家・福岡市在住／まだ若い女性でちょっと驚きました）に連絡を取ると、心よく了解いただき、二つの施設での展示が実現する。せわしく見て回って良かったと思える瞬間でもある。懐かしい昔の思い出が生き生きと蘇り、豊かなひとときをそれぞれが過ごしていただけるきっかけになればと思っている。

My Way

朝倉医師会ケアプランサービス　安丸　享子さん

今回の紹介者は「朝倉医師会ヘルパーステーション　原　千賀子さん」です。

今回は、平成２１年４月より医師会ケアプランで管理者をされている安丸享子さんを紹介させていただきます。

安丸さんは、医師会病院で看護師として１２年間勤務され、その後、訪問看護ステーションで８年間勤務されました。

そのキャリアを生かし、今はケアマネージャーの仕事をされ、利用者様やご家族の為に、困難な相談にでも一生懸命取り組まれています。そのパワーには圧倒され、私も頑張らなくては・・・という思いになります。いつも元気に明るく、大らかな性格で、人当たりもよい為、誰からも親しまれ頼りになる方です。

次回は安丸さんからのご紹介で

タイヘイＭ＆Ｃ 久留米営業所の国武 慎矢さんです！

介護スタッフリレーコラム

「視点」

朝倉健生病院　訪問リハビリステーション　神崎　慎さん

訪問リハビリに従事し始めてから１年が経過しました。振り返れば院内との違いに戸惑い、同僚に尻を叩かれながら慌ただしく過ぎていった気がします。

院内と訪問の違いは色々ありますが、私にとっての大きな違いは仕事場が利用者様の家である事です。ここは平行棒などの器具や道具はない為、ベッドサイドのリハビリの延長になりがちになってしまいます。しかし、その方法では行き詰るケースが出てきます。そんな時は現場が実際に生活を行っている場所というメリットを生かし、機能面だけでなく、利用者様が“今後どのような生き方をされるのか”といった生活面や支えてくれている家族への配慮などいままでなおざりにしてきた視点が必要になってきます。機能に新たな視点の必要性に気づかせてくれたのが訪問リハビリです。面に注視しがちな私新たな視点の必要性に気づかせてくれたのが訪問リハビリです。

徒然日記

介護用品ハーテック　Ｍ・Ｙ

～ 人間らしい心 ～

先日、褥瘡予防勉強会に参加した時の事です。講師である堀田先生が、褥瘡の患部に貼った絆創膏がズレてしまった写真を見せられて「どう思いますか」と質問されました。これを見て何が悪かったかを考えるよりもまず、「かわいそう」「痛そう・・・」「どうにかしてあげたい」という気持ちになって欲しいと言っておられました。

医療も介護もまず、こんな人間らしい心からスタートすべきなんだなと、改めて感じましたし、この心がないと本当の意味の『医療』や『介護』は出来ないと思いました。そして知識や技術だけではない事をあらためて教えてくださった堀田先生のすばらしさも実感することが出来ました。医療や介護やその他の色々な場面でまず相手の気持ちになって考えられる人になれたら、自分もまわりにいる人も幸せになれるはずです。この事は、勉強することや知識を習得する事よりも案外難しい事なんでしょうか。いや、本当は簡単な事なのに気づこうとしていないだけなのかもしれません。もう一度考えてみたいですね。

編集後記

新型インフルエンザの流行でマスクが手放せない状況が続いています。個人的にはマスクは息苦しくて苦手なのですが、医療従事者がウィルスの媒介になるわけにはいかないため、いつも以上に気を引き締めて付けている状況です。広報誌作成への参加は小学校の学級新聞以来の為、原稿に頭を抱えながらも、めったにない機会なので楽しんで作成していこうと思っています。今後も皆様には原稿依頼をお願いすることがあると思われますがご協力をよろしくお願いします。

事 務 局
朝倉介護保険事業者協議会　事務局
〒838-0814　福岡県朝倉郡筑前町高田2311
特定非営利活動法人　武光福祉会
TEL (0946)22-9743　FAX (0946)22-5465

編集 ／ 発行所
朝倉介護保険事業者協議会　広報部
〒8380-0228 福岡県朝倉郡筑前町二242-17
（有）エム・エス・ケイ 介護用品ハーテック
TEL (092)926-8109　FAX (092)926-8109

印刷／井上総合印刷株式会社